

がんゲノム医療連携病院における当院での臨床検査技師の役割

◎杉浦 記弘¹⁾、杉山 宗平¹⁾、牧 明日加¹⁾、情家 千裕¹⁾、角谷 優海¹⁾、高須 大輔¹⁾、松尾 奈緒¹⁾、岡田 元¹⁾
安城更生病院¹⁾

【はじめに】当院はがんゲノム医療連携病院に指定され、2019年6月より保険適用されたがん遺伝子パネル検査を開始している。がん遺伝子パネル検査の開始に先立ち、臨床検査技師を含めた多職種で運用の構築を行い、その中での臨床検査技師の役割や今後の課題について報告する。

【運用の構築】以前は当院に遺伝子専門の外来や担当が存在しなかった。そのため、新たに選任されたゲノム担当医1名、がん担当看護師1名、臨床検査技師、事務を中心に、がんゲノムWGの発足やがんゲノム外来の設立、C-CAT等の専用回線設備やがん遺伝子パネル検査提出の準備、院内でのがん遺伝子パネル検査運用フローの構築を行い、各職種での役割を決めて、がん遺伝子パネル検査を開始した。

【臨床検査技師の業務】がんゲノム医療コーディネーター(CGMC)研修を修了した臨床検査技師を中心として、①臨床医やゲノム担当医からの組織検体ブロックについての問い合わせ対応、②病理医への腫瘍組織ブロックの確認、③医師が電子カルテに記載した患者情報のC-CATポータルへの転記および患者登録、④パネル検査用の検体作製、

⑤NCC オンコパネルや中外FMIポータルシステムでの依頼作成・提出、⑥返却結果の確認や、C-CATやがんゲノム医療中核拠点病院との共有フォルダへのファイル転送、⑦エキスパートパネルの参加等により、できるだけ医師の負担を軽減できるような業務分担とした。また、ゲノム担当医やがん担当看護師と定期的に連絡を取り合うことで、進捗を把握し運用を円滑に進めている。

【今後の課題】担当者には、CGMC研修修了者や、病理検査・遺伝子検査の基礎知識やがんゲノム医療についてある程度理解した臨床検査技師が望まれる。開始当初は件数も少なく、特定の担当者のみで対応できていたが、新たに血液検体を用いたがん遺伝子パネル検査の出現や検査件数の増加に伴い、今後はがん遺伝子パネル検査に対応可能な人材の育成が必要である。

【まとめ】がん遺伝子パネル検査は今後ますます増えていくと考えられ、臨床検査技師も活躍できるように、人材の育成や運用整備をしていきたい。

連絡先：0566-75-2111